

各地で話題の病害虫

カキノキカキカイガラムシ

学名: *Lepidosaphes cupressi* Borchsenius

近年、徳島県、淡路島、大阪湾沿岸のヤマモモ



徳島県果樹試験場
行成 正昭氏提供

の産地で、本虫による被害が発生している。

本虫は、わが国では昭和37年に兵庫県明石市産のカキで初めて発見され、昭和45年ごろから大阪湾沿岸地帯のヤマモモに発生し、その後、次第に発生地域を拡大し、平成元年には兵庫、大阪、和歌山、岡山、徳島、香

川、高知、静岡などで発生が認められている。

雌のカイガラは茶褐色から褐色で細長く、長さ3mm内外である。表面には灰白色の口吻物質をまとった個体もある。虫体の色は淡黄色である。

本虫に加害されると、樹勢の衰弱や枯死枝、枯死株が生ずる。

本虫はヤマモモのほか木本・草本植物の92種に寄生することが確認されている。特にヤマモモ、モチノキ、カナメモチなどに寄生が多くみられ、ナシ、カキ、ブドウ、キウイなどにも高密度に寄生している例もあることから、今後の動向が注目されている。

本虫の生態及び防除方法については今後の研究が待たれる。

ストック立枯病

学名: *Fusarium roseum* Link f.sp. *cerealis*
Snyder et Hansen

平成元年3～6月、長野県の施設栽培のストックで、地際部が褐変し、くびれて枯死する腰折れ症状株が発生した。

本病は長野県野菜花き試験場の調査によって、*Fusarium roseum* Link f.sp. *cerealis*により起こる病害であることが明らかとなった。本菌はムギ類赤かび病菌、ソラマメ立枯病菌と同一菌で全国的に分布しているが、ストックの病害としてはわが国では報



長野県野菜花き試験場
清水 時哉氏提供

告がないことから、「ストック立枯病」と命名された。

病徴は地際部が侵されて褐変し、立枯症状を呈するが、萎ちようは認められない。本菌は地際の茎を表面から侵し、心部に達する。病勢が進展すると地際部がくびれて容易に引き抜ける。維管束の褐変は認められない。

防除対策としては、被害残渣をほ場に残さないこと、敷きわらに麦わらは避けること、稲わらを使用する場合には、前作にムギ類の栽培歴があるほ場は避けること（堆肥についても同様）。育苗土に麦稈・稲わらを混合する場合には、その後の土壌消毒を徹底することなどである。

オオクロコガネ

学名: *Holotrichia parallela* (Motschulsky)

英名: large black chafer

栃木県のダイズ栽培ほ場で、本虫による被害が毎年発生し問題になっている。

本虫の幼虫は根を食害するため、8月下旬に生育不良となり、9月中・下旬には坪状に葉の黄化がみられる。ダイズシストセンチュウの被害に似ているが、根がほとんど食害されているため、簡単に引き抜ける。加害が進むと早期に落葉し倒伏する。



栃木県普及教育課
合田 健二氏提供

幼虫は白色であるが、3齢後期には黄色を帯び、体長は3cm程度になる。

成虫の体長は22mm前後、長楕円形、黒褐色～黒色であるが光沢を欠く。

発生は年1回、土中で越冬した

3齢幼虫は5月上旬に蛹化し、5月下旬～6月上旬に羽化して地上に出てくる。成虫は夜間サクラ、モモ、クズ等の葉を食害して、7月中旬～8月上旬に土壌中に産卵し、8月上旬に幼虫が出現し10月中旬まで根の加害を続け3齢幼虫で越冬する。

防除対策としては、幼虫にはダイアジノン粒剤の土壌混和が有効である。

アスパラガス苗立枯病

学名: *Rhizoctonia solani* Kuhn

英名: damping-off

平成元年3月から4月にかけて、長崎県のアスパラガス産地で育苗中のアスパラガスに立枯症状が発生した。

本病は長崎県病害虫防除所の調査によって、キュウリやトマトなどに苗立枯病を起こす菌と同じ *Rhizoctonia solani* によって起こることが明らかとなった。

本菌は野菜類の苗立枯病からよく検出されており、野菜栽培ほ場に広範囲に分布していると推察されて



長崎県病害虫防除所 坂口 莊一氏提供

いるが、アスパラガスにおける発生は初めてのことであり「アスパラガス苗立枯病」と提唱された。

病徴は、はじめ茎の地際部の変色、株先端部の萎ちようがみられ、病徴が進展した株では、地際の褐変、くびれによる倒伏、株全体の淡褐色化と枯死などこれまで知られている野菜類の苗立枯病の症状と酷似している。

防除方法としては播種前の土壌消毒が重要と考えられる。生育期の発病回避には排水対策が特に重要である。

訂正：前33号4頁「ラッカセイのウイルス病」のなかの写真提供者名の「肥後 俊弘 氏」を「仙北 俊弘 氏」に、同号5頁「ミスジツマキリ」エダジャク」のなかの写真提供者名の「原 秀徳 氏」を「原 秀穂 氏」に訂正願います。